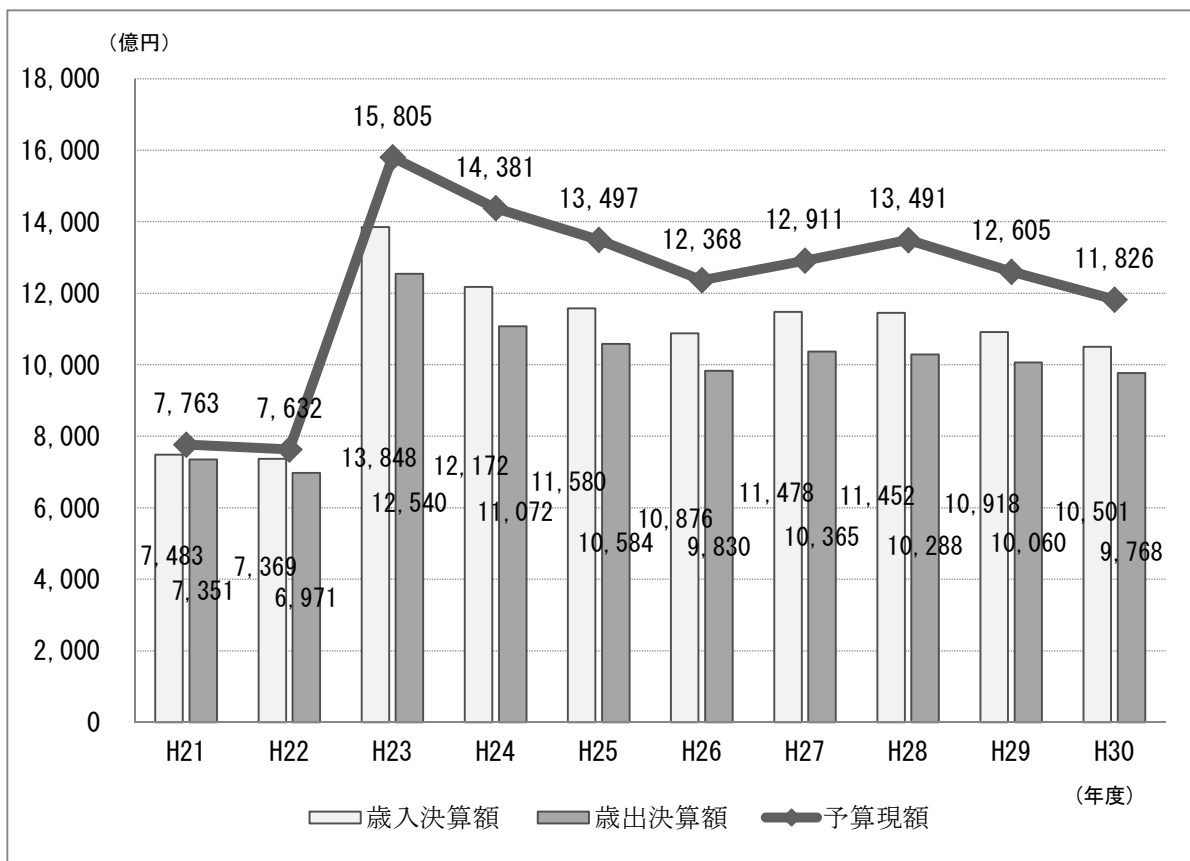


平成 30 年度一般会計歳入歳出決算の概況

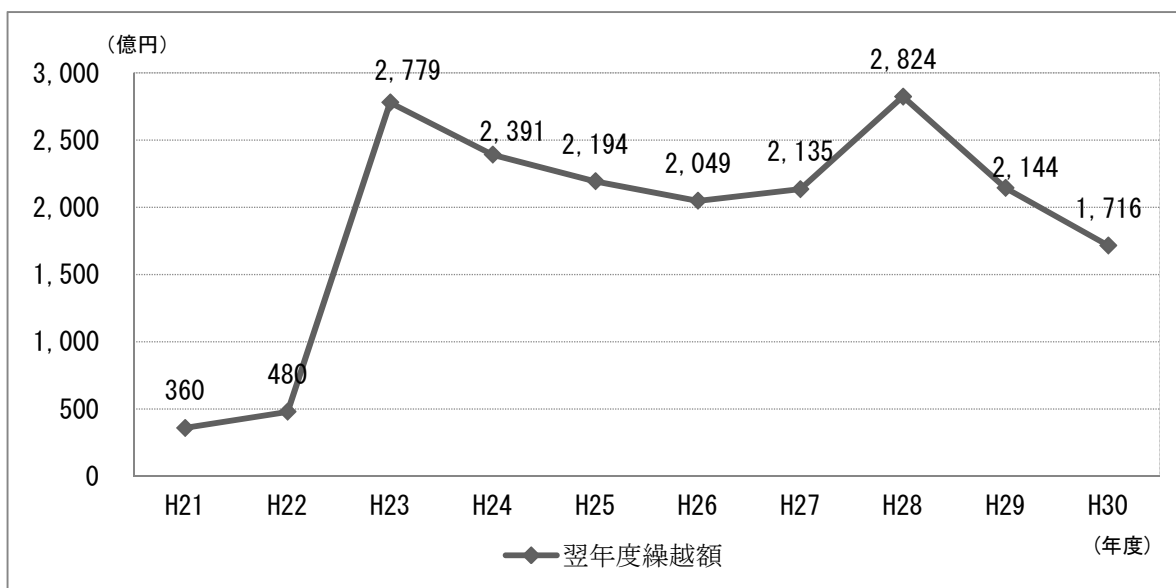
1 予算現額及び歳入・歳出決算額の推移

歳入・歳出決算額は、復旧復興事業の進捗に伴い、繰越明許費繰越額の減少に伴う繰越金や各種基金からの繰入金が減少したことなどから前年度を下回った。



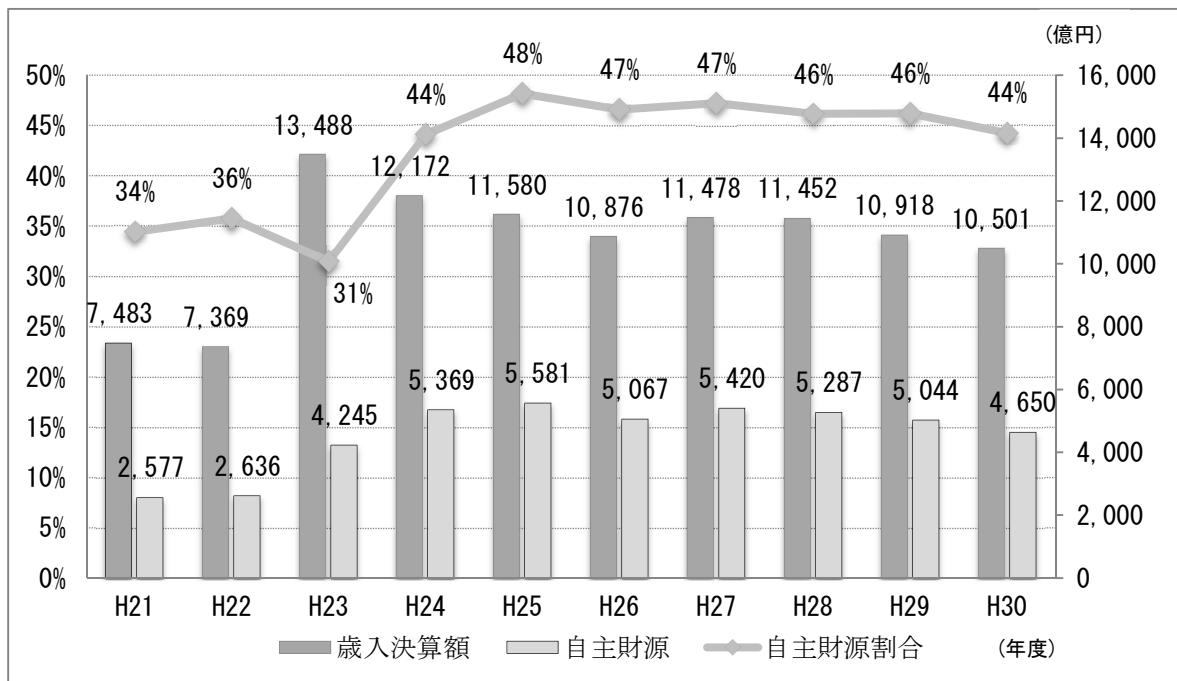
2 翌年度繰越額の推移

翌年度繰越額は、繰越明許費繰越、事故繰越とも前年度に比べ減少し平成 23 年度以降で最少となっている。



3 自主財源割合の推移

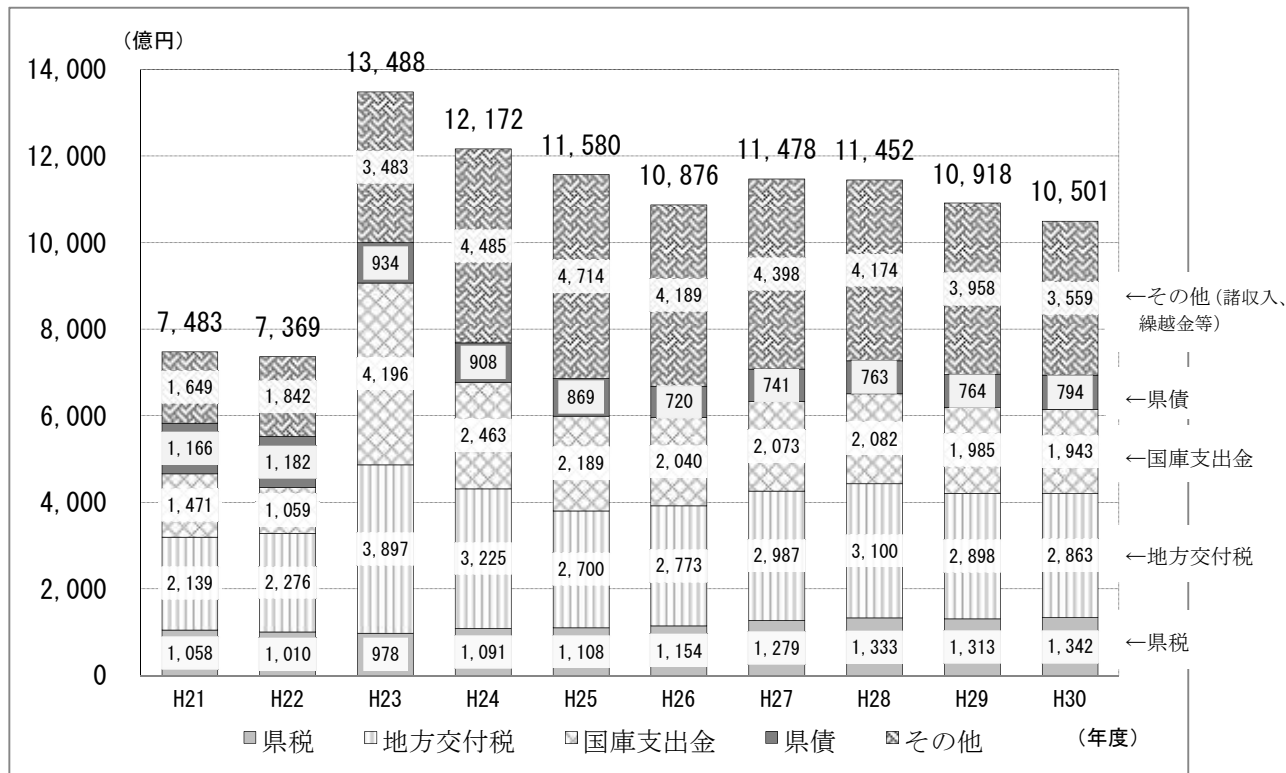
自主財源は、繰越金や繰入金の減などにより減少したが、県税や地方消費税清算金などが増加したことにより、7年連続で40%台となっている。



※自主財源：県税、地方消費税清算金、分担金及び負担金、使用料及び手数料、財産収入、寄附金、繰入金、繰越金、諸収入

4 歳入決算の状況

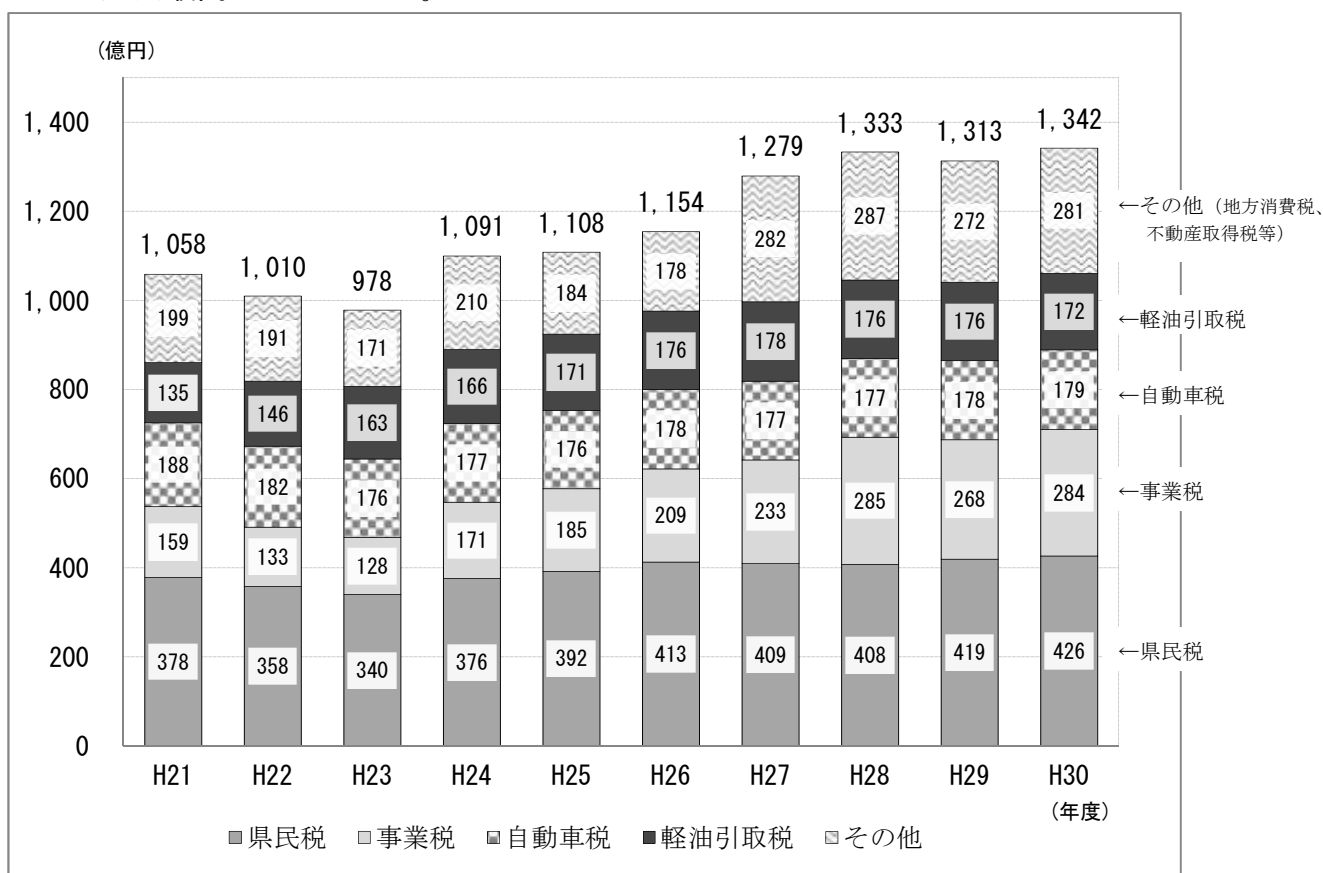
歳入決算額は、繰越金の減や財政調整基金などの基金繰入金及び国庫支出金の減などにより減少した。



【歳入のうち県税と県債の状況】

(1) 県税

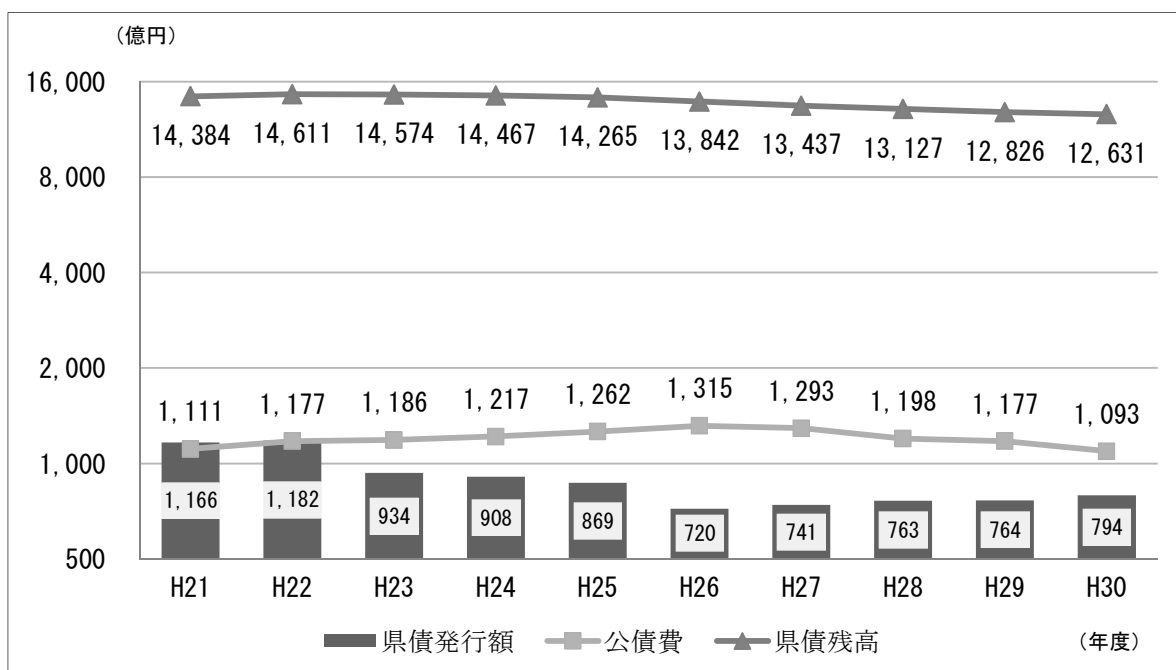
県税収入は、事業税、地方消費税、県民税などの増により、昨年度より増加し過去最高となっている。



※事業税（法人事業税、個人事業税） 県民税（個人県民税、法人県民税、利子割県民税）

(2) 県債

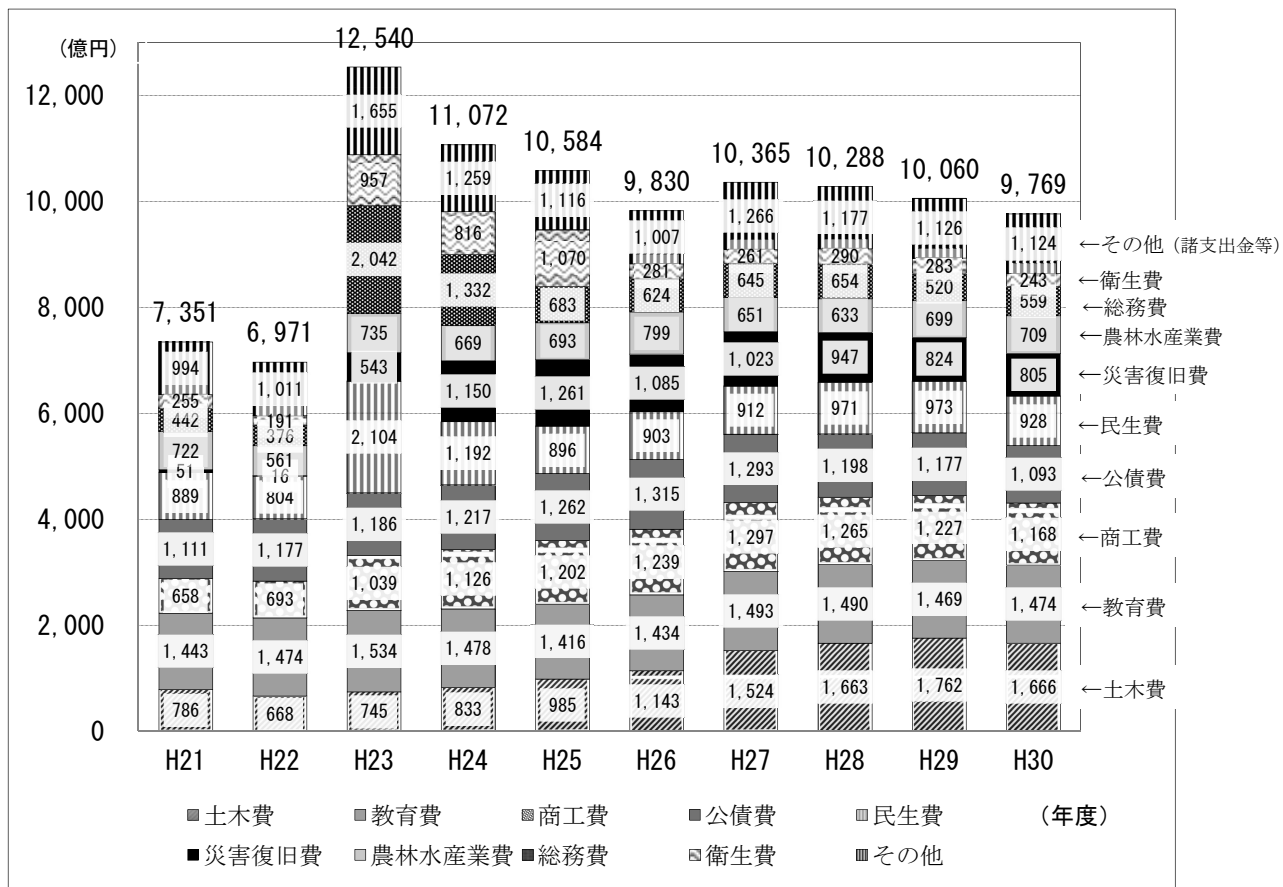
県債残高は、平成 22 年度をピークに減少している。



5 歳出決算の状況

(1) 目的別

目的別分類では、地域連携道路整備事業費などの減少に伴う**土木費の減**、県債償還元金及び利子の減少に伴う**公債費の減**、中小企業東日本大震災復興資金貸付金などの減少に伴う**商工費の減**などより減少した。



(2) 性質別

性質別分類では、公債費の減により**義務的経費**、普通建設事業費の減により**投資的経費**、補助費等の減により**その他の経費**がそれぞれ減少した。

